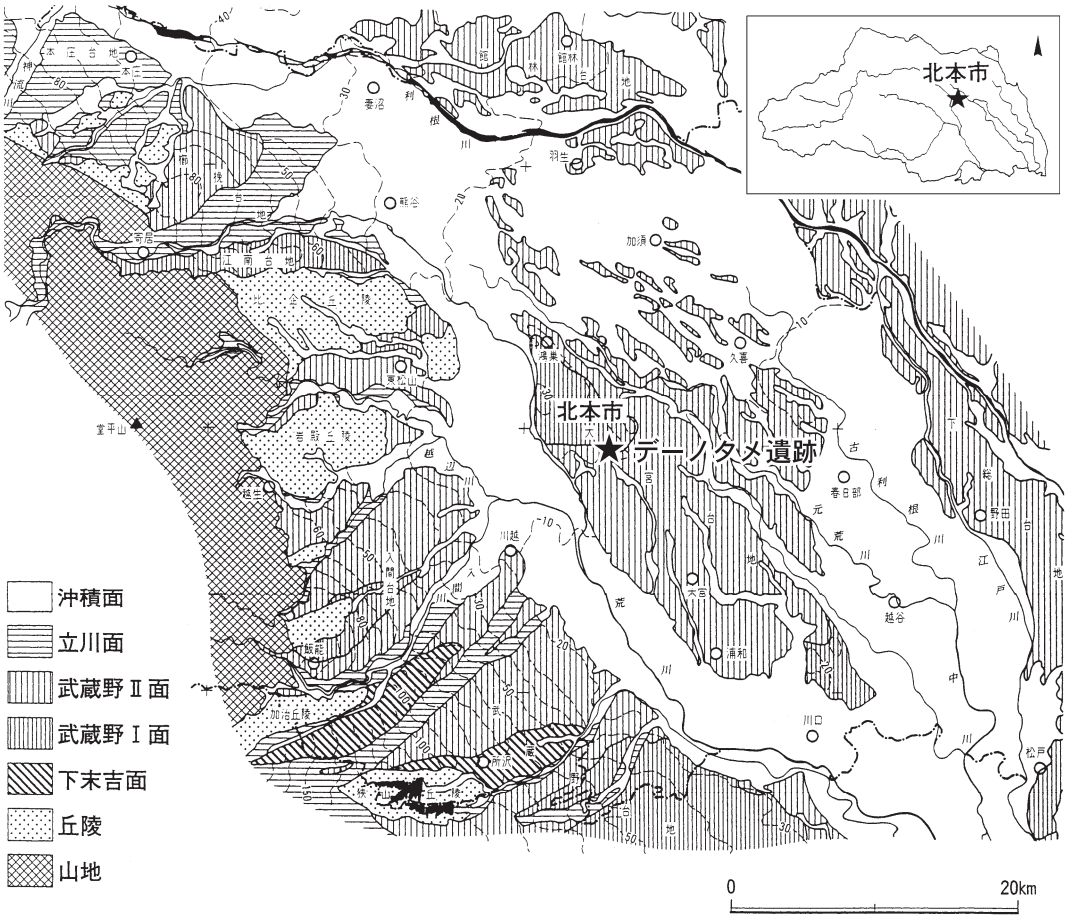
第Ⅱ章　遺跡の立地と環境

第１節　遺跡の地理的環境

北本市は埼玉県の中央部やや東寄りに位置し、市域の大半は大宮台地の北部に展開している。大宮台地は武蔵野台地と下総台地に挟まれており、西の荒川低地と北の加須低地、東の中川低地に画されて島状に独立する。台地の規模は北端の鴻巣市から南端の川口市までが約35km、東西は約15kmで紡錘形を呈し、東側には狭小な小支台が多数分布する（第４図）。

この大宮台地の北部に位置する北本市は、本台地において最も標高が高く、市域北西部の高尾・荒井付近では標高が32mを超え、西側の荒川低地との比高差が大きく、また樹枝状に発達した開析谷の浸食によって比較的起伏に富んだ地形を形成する。市域の標高はここから東へ向かって緩やかに高さを減じ、市中央部の江川流域では約20～25m、東部では約15mと逓減する。このため、台地の東端は台地と低地との比高差が小さく、市域の東西では大きく景観が異なっている（第６図）。

デーノタメ遺跡は北本市の南部、下石戸下地内に位置し、経緯上の位置は北緯36°０′55″、東経139°32′18″である。遺跡は市を南北に貫流する江川流域の台地から低地にかけて広がっており、その規模は東西375m、南北235mである。台地の北西には江川の低地が広がっており、遺跡の北西部は東西170m、南北



第４図　大宮台地周辺と北本市の位置

80mの規模で段丘状の低位面が湾入しており、湧水起源による沼沢地の跡と想定される。第Ⅰ章で触れたとおり、この低位面と低地の境界付近には昭和40年代半ばまで「デーノタメ」と呼称される約1,000㎡の溜池が所在しており、この沼沢地を形成した湧水の名残と想定される。こうした湧水による豊かな水環境を特徴とする立地が、この地にデーノタメ遺跡が営まれた大きな理由の一つであろう（第７図）。

現在、遺跡の範囲は久保土地区画整理事務所の事業管理下に置かれ、台地部分の大半は雑木林、屋敷林、竹林等の緑地が占め、北部の台地低位面は草地として原状をよく残している。また、遺跡北部の広大な低地は、すでに北本団地（独立行政法人都市再生機構）の街区として造成、整備されて改変が著しい。

第２節　遺跡の歴史的環境

デーノタメ遺跡はこれまでの調査によって縄文時代中期の勝坂Ⅲ式期～加曽利ＥⅢ式期及び後期の堀之内Ⅰ式期から加曽利ＢⅠ式期を主体とする集落跡が明らかにされている。このうち中期集落は楕円形に展開する環状集落であり、長軸径で約210m、弧状に展開する後期集落は弦長で約270mと大規模であること、中期集落と後期集落ともに近接して低地遺跡を伴っている点が大きな特徴である。

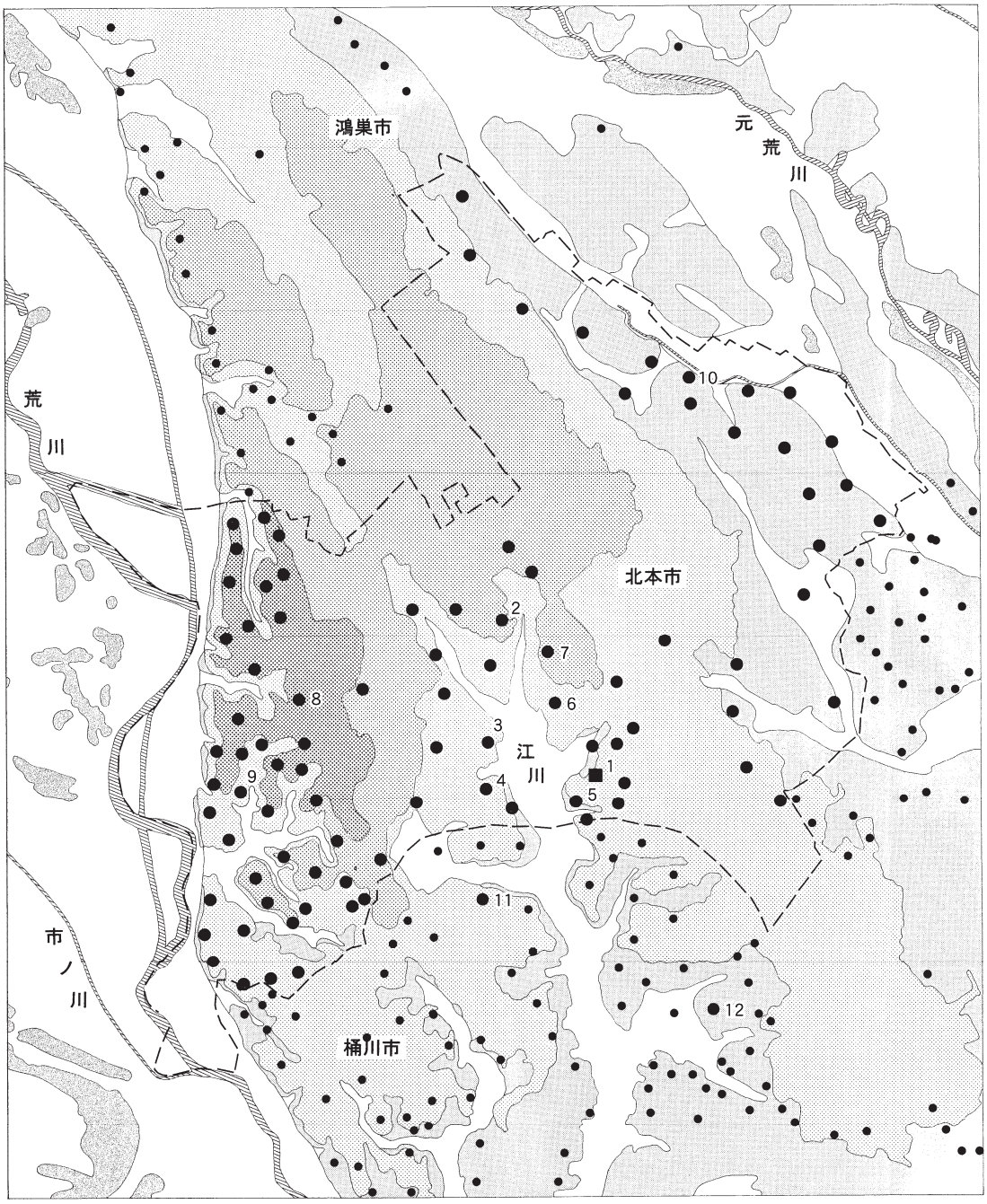
このデーノタメ遺跡を考える上で看過できないのが、本遺跡の所在する江川流域の縄文遺跡群である。本遺跡は市内南部の市境付近に位置するが、ここから約0.9㎞南西の桶川市川田谷には諏訪野遺跡が所在し、長径約180mの中期環状集落が確認されている（渡辺2014）。また、デーノタメ遺跡から南南東に約２㎞の高井遺跡（吉川・今井2001）、南南西に約４㎞の中井遺跡（上野他2017）では、やはり径200mを超える中期環状集落の存在が確認されており、小河川である江川流域では縄文時代中期の大環状集落が高密度で近接するという、特異な歴史的環境にあったことが注目される（第８図）。

この江川は、北本市域においては西側の本流及び中央と東側の２つの支流に分枝し、デーノタメ遺跡はこの東側支流に位置する。江川流域の主な縄文時代中期の集落遺跡としては、中央支流の奥に位置する三五郎山遺跡（第６図２）では加曽利ＥⅡ式を中心とする13軒の住居跡が調査され（齊藤2016）、西側本流では刑部谷遺跡（同図４）、氷川神社北遺跡（同図３）が所在し、氷川神社北遺跡では加曽利ＥⅠ式期の住居跡が４軒確認されており（磯野1995）、ともに環状集落の可能性が想定されている。

また、江川流域の縄文時代前期の集落としては、デーノタメ遺跡の南西に近接する榎戸遺跡（同図５）において関山式期の住居跡が３軒、西側本流の氷川神社北遺跡において諸磯ｂ式期の住居跡３軒が確認されており、後期称名寺式期では榎戸遺跡において住居跡４軒、台原遺跡（同図６）では土坑１基（吉川1990）、エイリンジ遺跡（同図７）では住居跡１軒が確認され（磯野1998）、それぞれ小規模集落が調査されている。

第５図　デーノタメ遺跡周辺の航空写真（昭和24年）

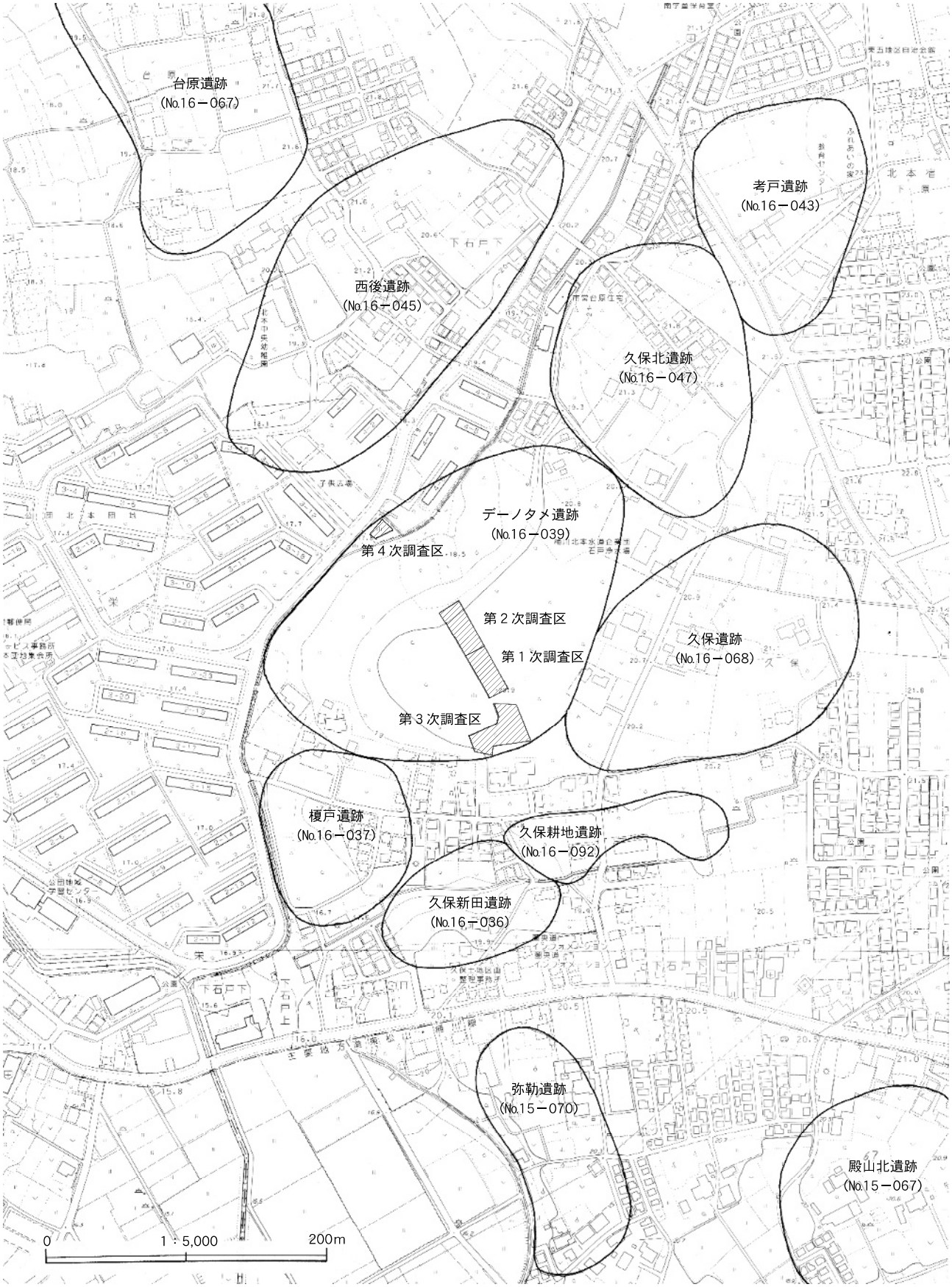
次に北本市域に視野を広げ、縄文時代の主な集落遺跡を概観しておきた



1．デーノタメ遺跡　2．三五郎山遺跡　3．氷川神社北遺跡　4．刑部谷遺跡　5．榎戸遺跡
6．台原遺跡　7．エイリンジ遺跡　8．宮岡氷川神社遺跡　9．市場遺跡　10．上手遺跡
11．諏訪野遺跡（桶川市）　12．高井遺跡（桶川市）

海抜30m以上（下末吉面）　海抜25m以上（下末吉面）　海抜20m以上（下末吉面）
海抜20m以下（武蔵野面）　沖積地　自然堤防
0　1:50,000　2km

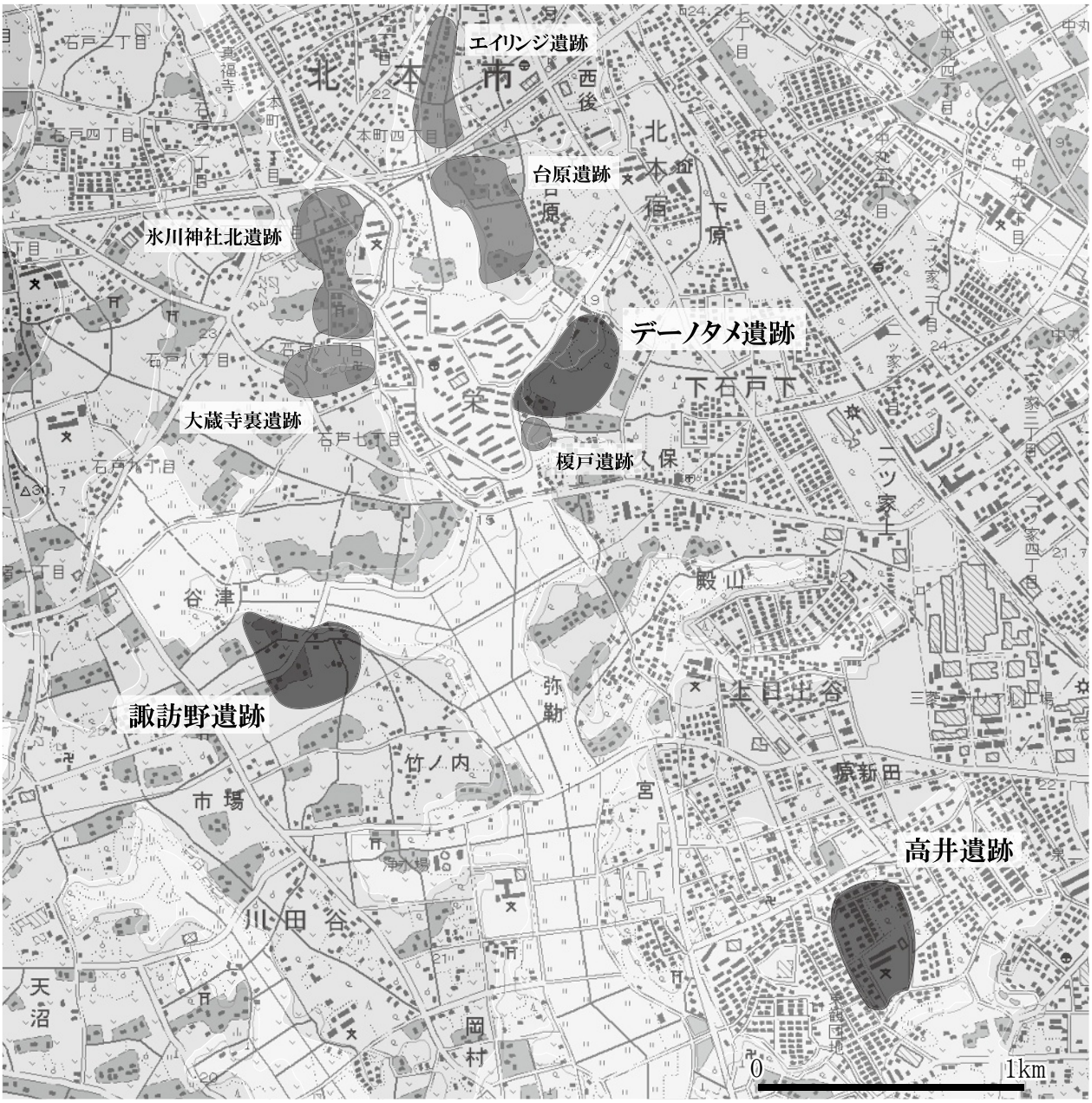
第６図　北本市周辺の地形と遺跡分布図



第７図　デーノタメ遺跡周辺の地形と遺跡分布図

い。市西部の荒川沿岸では、高尾地区の宮岡氷川神社前遺跡（同図８）における調査が特筆される。本遺跡は大宮台地上で最も標高が高く、谷頭部の湧水点を囲繞する台地肩部に展開しており、縄文後期後葉から晩期にいたる集落跡が調査され、安行Ⅱ、安行Ⅲc 式期の住居跡や遺物包含層から土製耳飾、土偶、土版、石剣、石冠等の遺物が出土している。周囲に遺存する環状盛土の可能性を残す遺構とともに注目すべき遺跡である（齊藤2008）。

この他、市東部の赤堀川沿岸では上手遺跡（同図10）の調査が注目される。この遺跡は元荒川低地を遡行する支谷に望む台地肩部に展開し、加曾利ＥⅢ式期を主体として加曾利ＢⅠ式期までの住居跡が43軒確認されており、この時期の集落跡としては比較的規模が大きい。古式の称名寺式土器を伴う柄鏡住居跡や直径10mの堀之内Ⅰ式期の大型住居跡等が注目される。また、市西部荒井地区の市場遺跡は荒川の崖線と谷津に画された遺跡で、これまでに発掘調査は実施されていないが、台地上に広汎な加曾利Ｅ式土器の分布が認められ、大規模な環状集落の存在が想定されている。



第８図　江川上流域の縄文時代の遺跡

第３節　過去の調査と研究

デーノタメ遺跡の埋蔵文化財包蔵地の指定は昭和44年のことで、当初は「デーノタメ遺跡Ⅰ」「デーノタメ遺跡Ⅱ」という名称で２遺跡に分かれていた。その後、平成９年度の埋蔵文化財詳細分布調査において遺跡の南西側に縄文時代中期の遺構・遺物が広範囲で認められたため、平成10年３月に変更増補の手続きを行い、「デーノタメ遺跡Ⅰ・Ⅱ」と「榎戸遺跡Ⅲ」を統合し、ほぼ現在の遺跡の範囲として名称を「デーノタメ遺跡」と改めた。その後、平成18年12月に久保特定土地区画整理事業地内において遺跡の範囲確認調査を行ったところ、遺跡の範囲が北側と南側に広がることがわかり、平成19年８月に変更増補の手続きを行い、現在の遺跡の範囲となっている。

デーノタメ遺跡が確認された当初は、土師器が散布する古墳時代の遺跡として認識されていたが、縄文時代中期の遺跡として認識されたのは、昭和63年に遺跡中央部の家庭菜園内でムロ穴を掘削した際、縄文時代中期の土器がまとまって出土したことを契機とする。連絡を受けた北本市教育委員会社会教育課は、現地を確認し、出土した土器、石器等の遺物を一括して受領した。その成果は平成２年に刊行された『北本市史第３巻上　自然・原始資料編』のデーノタメ遺跡Ⅰの項に掲載されている。

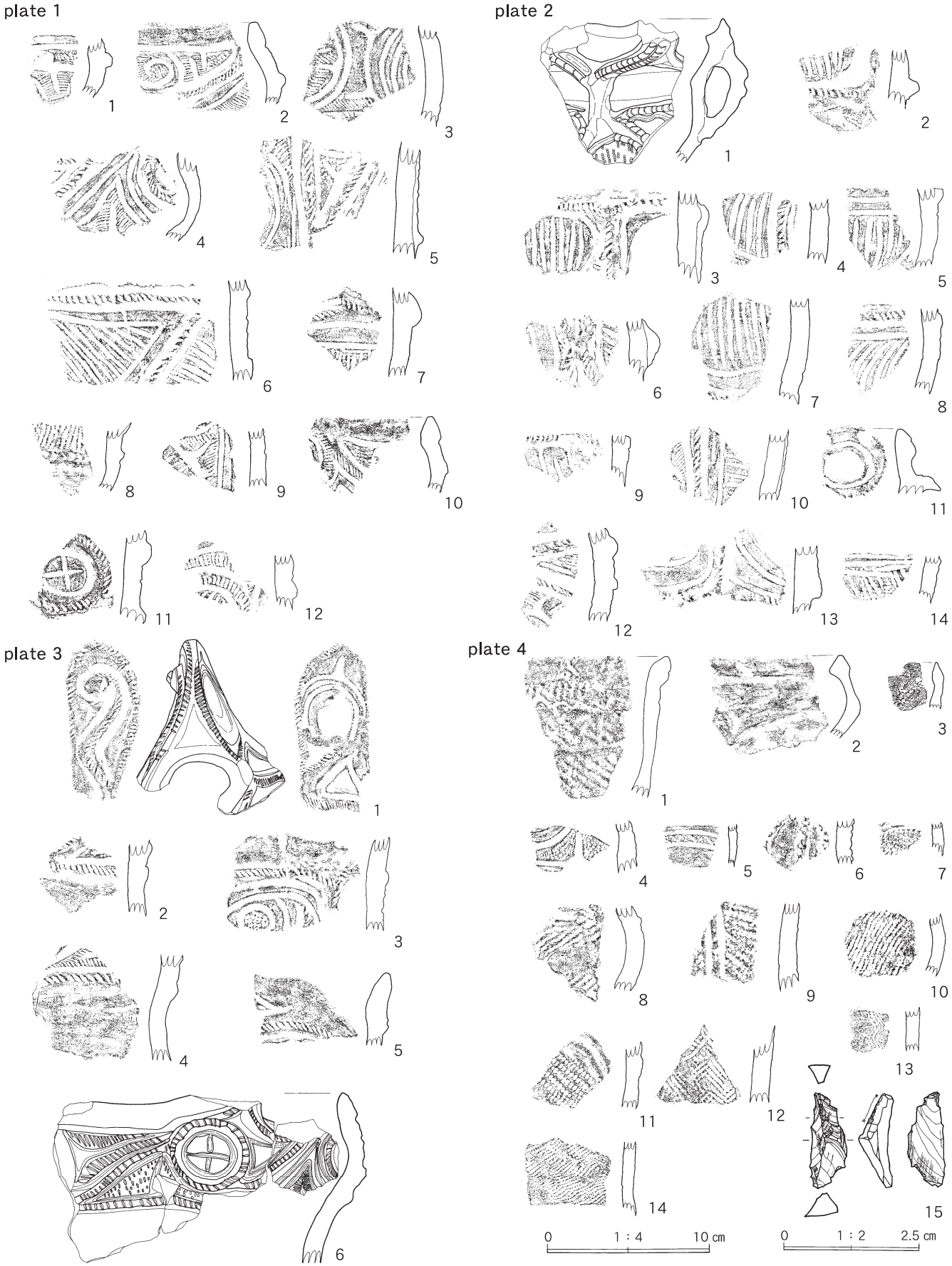
第９図はこの資料編の図版を転載したものである。Plate １～３は勝坂式土器等の一括資料で、小範囲から集中して出土したものである。出土地点は中期集落の東に位置する台地低位面で、平成29年度に付近の内容確認調査を行ったところ、やはり中期土器が濃密に出土し、土器の廃棄エリアと想定されている。プレート４は縄文時代中期の土器片等が掲載されているが、15は黒曜石製のナイフ形石器で、遺跡内において旧石器時代の活動があったことがわかる。

なお、低地を対象とした第４次調査では赤漆や黒漆を彩色した土器が出土しているが、昭和50年頃に遺跡内の水路を改修した際、水路の採掘面から縄文土器が露出し、中には赤い土器が含まれていることで話題になったという。おそらく赤い土器とは漆塗土器であると考えられる。残念ながらこれらの資料は散逸して残されていないが、当時、採集された縄文時代後期の浅鉢形土器が松本富雄氏により市教育委員会へ寄贈されている。第12図がその浅鉢形土器で、綱取Ⅱ式に比定される。

また、遺跡内に居住する大澤利夫氏は自宅周辺において表面採集した縄文土器等を所蔵されており、第10・11図はこれを示したものである。１は縄文前期諸磯式、２・３中期勝坂式、４～14は加曽利ＥⅠ式～加曽利ＥⅢ式、15・16は後期称名寺Ⅱ式、17は堀之内Ⅰ式、18～27は加曽利Ｂ式、29・30は安行Ⅲ式に比定される。31は耳形を呈する環状の土製品で完形である。その形態から耳か貝輪を模したものと想定されるが判然としない。32・34は打製石斧の破損品、33は凹石である。

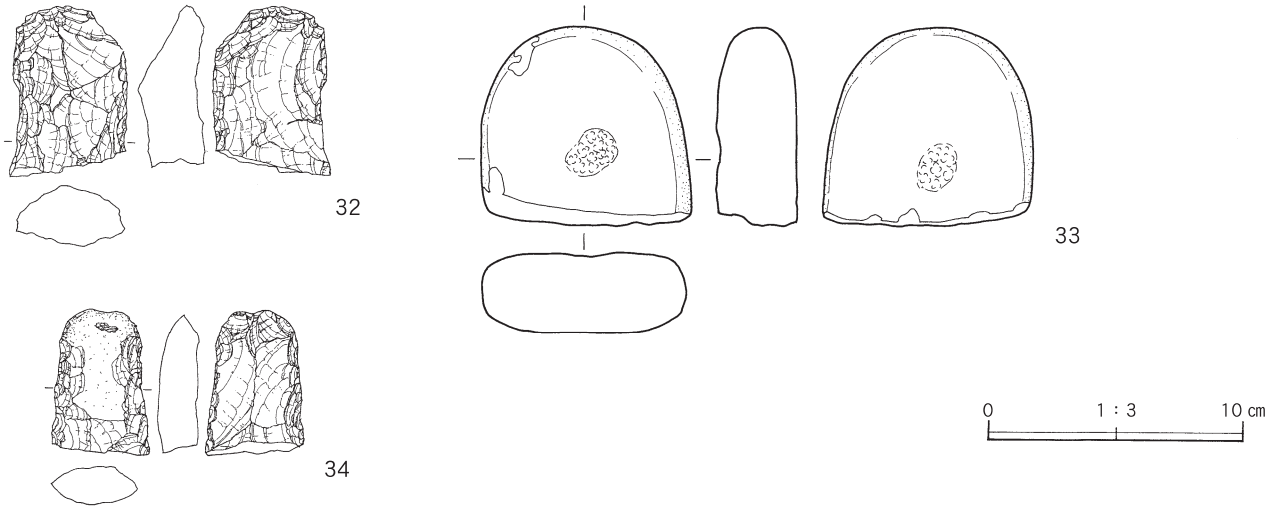
参考文献

磯野治司（1995）『氷川神社北遺跡（第２次調査）・市場Ⅰ遺跡』北本市文化財調査報告書第３集　北本市教育委員会
磯野治司（1998）『エイリンジ遺跡』北本市遺跡調査会報告書第３集　北本市遺跡調査会
上野真由美他（2017）『中井遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査報告第433集　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
齊藤成元（2008）『宮岡氷川神社前遺跡』北本市文化財調査報告書第16集　北本市教育委員会
齊藤成元（2016）『三五郎山遺跡』北本市文化財調査報告書第19集　北本市教育委員会
吉川國男（1990）「江川流域の遺跡」『北本市史第３巻上自然・原始資料編』北本市史編さん室
吉川國男・今井正文（2001）『高井遺跡第４次・第５次・第10次・第11次発掘調査報告書』桶川市教育委員会他
渡辺清志（2014）『諏訪野遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査報告第410集　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

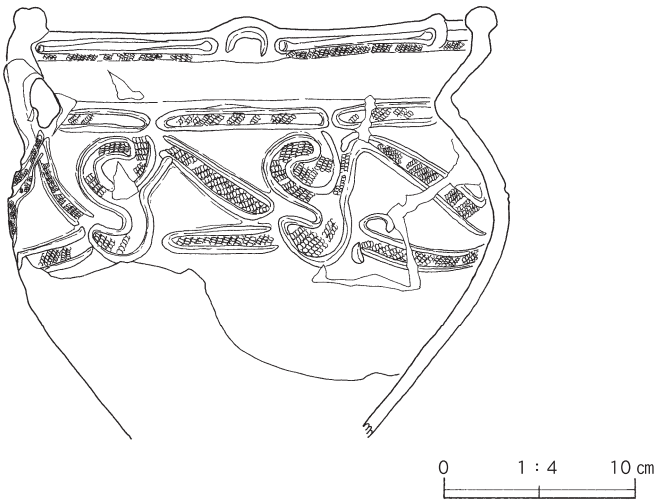


第９図　『北本市史原始資料編』に掲載されたデーノタメ遺跡Ⅰの遺物

第10図　大澤家所蔵考古資料（１）



第11図　大澤家所蔵考古資料（２）



第12図　綱取Ⅱ式土器